



## 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月8日

上場会社名 株式会社 ロイヤルホテル

上場取引所 東

コード番号 9713 URL <https://www.rihga.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 蔭山 秀一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務部長

(氏名) 坊傳 康真

TEL 06-6448-1121

四半期報告書提出予定日 2023年2月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	19,183	58.0	2,385		1,503		1,588	
2022年3月期第3四半期	12,143		6,020		2,945		3,102	

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,538百万円 ( %) 2022年3月期第3四半期 3,029百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	155.09	
2022年3月期第3四半期	302.87	

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等に適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	59,746	14,549	24.4
2022年3月期	59,920	16,088	26.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 14,549百万円 2022年3月期 16,088百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,700	62.2	3,000		2,300		12,500		1,175.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	10,271,651 株	2022年3月期	10,271,651 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	29,602 株	2022年3月期	29,478 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	10,242,108 株	2022年3月期3Q	10,242,335 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループで判断したものです。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項につきましては、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

A種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2023年3月期	—	0.00	—		
2023年3月期(予想)				0.00	0.00

B種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年3月期	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2023年3月期	—	0.00	—		
2023年3月期(予想)				4,274.26	4,274.26

C種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年3月期	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2023年3月期	—	0.00	—		
2023年3月期(予想)				2,011.18	2,011.18

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(収益認識関係)	8
(重要な後発事象)	8
3. 補足情報	9
部門別売上実績	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限が緩和され、社会経済活動の正常化に向けた動きが進みました。一方、長期化するウクライナ情勢や円安による物価上昇、原材料・エネルギー価格の高騰等、経済の下振れリスクを残し、依然として不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、まん延防止等重点措置が解除され、全国自治体による旅行・宿泊割引キャンペーン等が実施され、2022年10月には政府による全国旅行支援が開始されました。また、外国人観光客の入国制限が見直され、訪日外国人数が増加するなど、明るい兆しも見えております。一方、原材料費・光熱費をはじめとした各種コストの上昇により、引き続き厳しい事業環境下に置かれております。

こうした環境下、当社グループはお客様の安全安心を第一に考え、感染予防を徹底した上で営業活動にあたりるとともに、「生産性と業務効率の向上」を柱に、「ホテルビジネスの再構築」、「マーケティング力の強化」、「人事運営の改革」に取り組んでまいりました。

「生産性と業務効率の向上」については、部門を越えたサポート体制を充実し多役化の練度を上げることにより、さらなる生産性の向上に努めました。加えて、購買・調理・物販製造等の新システムを導入し、棚卸業務、食材管理、原価データ等と受発注の統括管理ができる体制を構築いたしました。

「ホテルビジネスの再構築」については、2022年4月21日に当社グループにとっては28年ぶりとなる海外での新ホテル「リーガロイヤル・ラグーナ・グアム・リゾート」を開業いたしました。全室オーシャンビューの、目の前に海が広がる癒しのリゾートホテルで、自然の中でのヨガやフィッシングなどのアクティビティ、海との一体感を味わえるインフィニティプールなど、お子様から大人まで存分に非日常の時間を楽しんでいただけます。2022年12月には京都市内に3軒目となる新ホテル「リーガブレイス京都四条烏丸」の開業を発表いたしました。宿泊主体型のエコノミーホテルとして2023年4月に開業を予定しております。

また、リーガロイヤルホテル（大阪）では、「日本の自然」をデザインした、心潤う癒しの空間を提供するナチュラルコンフォートフロアを、新たにサステナブルステイフロアへと進化させました。資源を有効活用できるようバスルームのシャワーヘッドを節水型に取り替えたほか、使い捨てのアメニティや備品を変更し、プラスチックごみ等の削減を実現いたしました。また、地球環境に配慮した滞在のご提案として、お客様がアメニティ不要を選択できるの宿泊プランをグループ各ホテルで販売いたしました。ホテルとして、非日常を提供しながらも、地球や社会、お客様にとっても持続可能な社会を実現する取り組みを進めております。

設備面では、リーガロイヤルホテル（大阪）において、当社グループのグランメゾンである「レストランシャンボール」を2022年4月にリニューアルいたしました。1973年の開業当初から受け継がれる伝統の継承に「ここでしか体験できない特別なサービス」を融合し、店内に展示する絵画や新たに設けた「サロンスペース」で過ごすアペリティフタイム等、非日常を存分に堪能いただける設えにいたしました。さらに、2022年12月には光の演出とフュージョン料理を味わっていただけるレストラン「THE RAY（ザレイ）」をグランドオープンいたしました。「一筋の光」をテーマにレストラン全体をデザインし、新しい料理体験に向き合えるよう、限りなく無駄な要素を排除し「削ぎ落とす美学」を徹底した設計の空間が、五感を研ぎ澄まし、料理の本質に深く向き合える食体験をお愉しみいただけます。

「マーケティング力の強化」については、スマートフォン向けアプリを活用した会員サービス「リーガメンバーズ」の新規登録キャンペーン等を実施し、会員の獲得に注力いたしました。2022年12月末時点で会員数約22万人と多くのお客様にご利用いただいております。また、新たに「宿泊戦略推進室」を本社に発足させ、当社グループを横断して宿泊部門の販売戦略や業務効率化の支援を開始いたしました。グループ共通の海外向けデジタルマーケティングやプロモーションを主導し、コロナ後のインバウンド受注に向けた取り組みを推進しております。

「人事運営の改革」については、AIやデジタルトランスフォーメーションを始めとする新たな知識やスキルを学ぶオンライン社員研修を開始し、従業員のリスキリング（学び直し）、自己実現のサポートに取り組みしました。

また、従業員のモチベーションの維持・向上のために、若年から中堅層の賃金を改定し、処遇の改善を実施いたしました。若年層教育の一環として、当社グループの旗艦ホテルであるリーガロイヤルホテル（大阪）でグループホテルの社員が研鑽を積む「短期研修制度」と、直属ではない先輩と知り合い、サポートを受ける「メンター制度」をグループホテルに展開いたしました。さらに、女性の視点から働き甲斐の醸成と働きやすさの整備について考える部門横断チームの活動をスタートいたしました。

このように足元の業況を踏まえた施策とともにコロナ後を見据えた施策に取り組み収益の改善に注力してまいり

ました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、全部門で前年同期実績を上回り、19,183百万円と前年同期比7,040百万円(58.0%)の増収となりました。

損益面では、営業損失2,385百万円(前年同期は営業損失6,020百万円)、経常損失1,503百万円(前年同期は経常損失2,945百万円)となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,588百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失3,102百万円)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ174百万円減少し59,746百万円となりました。内訳では流動資産が同539百万円増加し6,462百万円となりました。これは現金及び預金が989百万円減少したものの、売掛金が1,313百万円増加したこと等によります。固定資産は同714百万円減少し53,283百万円となりました。これは減価償却等により有形固定資産が715百万円減少したこと等によります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,363百万円増加し45,196百万円となりました。これはホテル稼働上昇により、買掛金が699百万円及び流動負債の「その他」に含めております未払費用が566百万円増加したこと等によります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ1,538百万円減少し14,549百万円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等によります。これにより自己資本比率は、前連結会計年度末の26.8%から24.4%になりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績につきましては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、適正かつ合理的な算定が困難であるため、未定としておりましたが、現時点において入手可能な情報に基づいて算出した業績予想を公表いたします。

詳細につきましては、本日公表いたしました「2023年3月期通期連結業績予想に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,561	2,571
売掛金	1,228	2,541
原材料及び貯蔵品	396	770
その他	737	580
貸倒引当金	△0	△1
流動資産合計	5,922	6,462
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	61,318	61,345
減価償却累計額	△48,075	△48,694
建物及び構築物（純額）	13,242	12,650
土地	27,000	27,000
リース資産	350	346
減価償却累計額	△226	△252
リース資産（純額）	124	93
その他	5,436	5,444
減価償却累計額	△4,351	△4,451
その他（純額）	1,085	993
有形固定資産合計	41,452	40,737
無形固定資産		
ソフトウェア	246	311
その他	57	12
無形固定資産合計	303	323
投資その他の資産		
差入保証金	11,917	11,921
繰延税金資産	3	2
その他	333	313
貸倒引当金	△12	△13
投資その他の資産合計	12,241	12,223
固定資産合計	53,998	53,283
資産合計	59,920	59,746

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	549	1,249
短期借入金	4,000	5,300
1年内返済予定の長期借入金	1,400	1,400
契約負債	867	672
賞与引当金	132	140
その他	1,761	2,704
流動負債合計	8,711	11,467
固定負債		
長期借入金	26,400	25,350
繰延税金負債	17	14
退職給付に係る負債	5,407	5,367
長期預り金	3,143	2,885
その他	152	111
固定負債合計	35,120	33,729
負債合計	43,832	45,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	20,835	20,835
利益剰余金	△4,724	△6,312
自己株式	△61	△61
株主資本合計	16,149	14,561
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	39	42
退職給付に係る調整累計額	△101	△53
その他の包括利益累計額合計	△61	△11
純資産合計	16,088	14,549
負債純資産合計	59,920	59,746

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	12,143	19,183
売上原価	2,864	4,168
売上総利益	9,279	15,015
販売費及び一般管理費		
水道光熱費	1,213	1,759
人件費	6,774	7,519
諸経費	7,311	8,122
販売費及び一般管理費合計	15,300	17,401
営業損失(△)	△6,020	△2,385
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	4	6
雇用調整助成金	2,334	863
協力金収入	745	220
その他	240	53
営業外収益合計	3,326	1,145
営業外費用		
支払利息	241	262
その他	10	1
営業外費用合計	251	263
経常損失(△)	△2,945	△1,503
特別損失		
固定資産除却損	112	56
減損損失	30	20
特別損失合計	143	77
税金等調整前四半期純損失(△)	△3,088	△1,581
法人税、住民税及び事業税	9	9
法人税等調整額	3	△2
法人税等合計	13	7
四半期純損失(△)	△3,102	△1,588
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,102	△1,588

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純損失(△)	△3,102	△1,588
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8	2
退職給付に係る調整額	64	47
その他の包括利益合計	72	49
四半期包括利益	△3,029	△1,538
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,029	△1,538

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、未だに感染症の広がりや収束時期等の不透明感が強いことから、2023年度においてもまだ一定の影響を受けることを前提として、繰延税金資産の回収可能性等を検討しております。

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
客室	3,176	5,987
宴会	3,375	6,158
食堂	2,618	3,840
その他	2,323	2,562
顧客との契約から生じる収益	11,493	18,549
その他の収益	649	634
外部顧客への売上高	12,143	19,183

(注) 「その他の収益」は、リース取引に関する会計基準に基づく不動産賃貸収入等であります。

(重要な後発事象)

(資本業務提携並びに資産及び運営に関する基本合意書締結について)

当社は、2023年1月20日開催の取締役会において、ベントール・グリーンオーク・グループ(以下「BGO」といいます。)との間で、①資本業務提携、②当社が所有するリーガロイヤルホテル(大阪)(以下「RRH大阪」といいます。)の土地、建物の信託受益権等のBGOへの譲渡、及び③当社がRRH大阪の運営を受託すること、を主な内容とする法的拘束力を有する基本合意書(以下「本基本合意」といいます。)を締結することを決議し、BGOとの間で本基本合意を締結しました。

なお、詳細につきましては、2023年1月20日に公表いたしました「ベントール・グリーンオークとの資本業務提携並びにリーガロイヤルホテル(大阪)の資産及び運営に関する基本合意書締結のお知らせ」をご参照ください。

## 3. 補足情報

## 部門別売上実績

(単位 金額：百万円、構成比：%、増減率：%)

部 門	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)		当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)		比 較	
	金 額	構成比	金 額	構成比	増減	増減率
客 室	3,176	26.1	5,987	31.2	2,811	88.5
宴 会	3,375	27.8	6,158	32.1	2,782	82.5
食 堂	2,618	21.6	3,840	20.0	1,221	46.7
そ の 他	2,972	24.5	3,197	16.7	224	7.6
合 計	12,143	100.0	19,183	100.0	7,040	58.0

(注) 受注生産は行っておりません。